





ではありませんが、決まったルールがあります。会話を進める力を伸ばすためには、教室でこのような会話のルールを指導する必要があります。

## 授業での応用

まず、学生に日本語の会話の流れがどんなものなのか、例を使って知ってもらう必要があります。

### ① 教科書のテープを利用する

会話例2 でも紹介しましたが、最近の教科書の会話は、自然な会話の流れを意識して作られています。そこで、教科書の会話テープを聞くときに、学生に次のようなことを質問するといいいでしょう。

- ・ どうやって会話を始めているか。
- ・ 会話を続けるためにどんな言葉を使っているか。
- ・ どうやって会話を終わっているか

さらに、次のような点も、会話の進め方を考えるときに大切です。

- ・ どのような状況か。
- ・ 会話の参加者はどういう関係か（はじめて会う人が、以前から知っている人が、目上の人か、など）
- ・ どのような目的のある会話なのか

このような質問は、学生が会話の流れを理解しているかどうかを確認するために聞くのですから、母語で行うといいいでしょう。中級以上の学生には、日本のドラマや映画などの会話を見せて、上のような質問をすることもできます。

さらに、学生自身が話す活動をするときに、会話の流れを作る練習をさせることも必要です。

### ② 文型練習を会話練習にする

初級で学習する基本的な文型の練習をする場合にも、できるだけ自然な会話に近づけるように工夫をすといいいでしょう。例えば、時間の言い方、時間の聞き方を勉強したら、文型練習のときに、会話の始めや終わりの表現、あいづちなどを入れれば、実際の会話に近づきます。

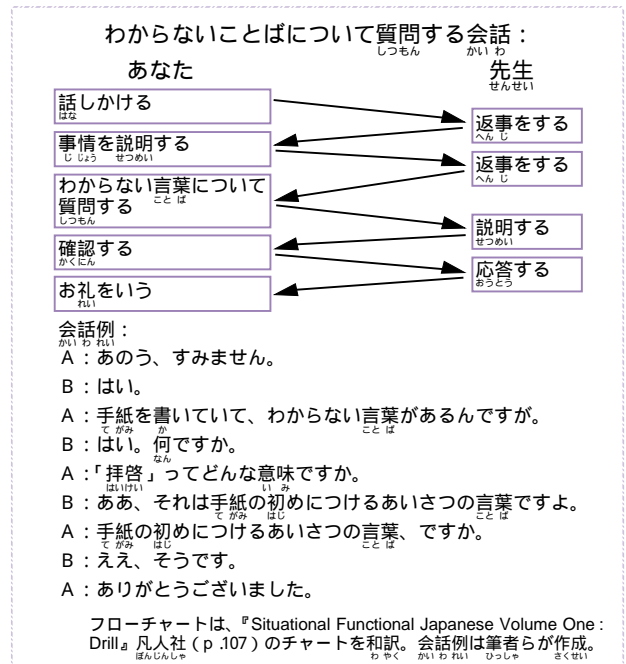
#### 会話例3

A: すみません。今、何時ですか？  
B: はい、ええと、今5時半です。  
A: そうですか。ありがとうございます。

### ③ 会話のフローチャートを使う

会話の流れがある程度はつきり表せる場合には、会話の流れをフローチャートの形で表して、学生に進め方を

確認させることもできます。



### ④ ロールプレイでチェックする

学生がロールプレイで自由に会話を作るとき、会話の流れを意識するように指導します。そして、教師がロールプレイを評価するときに、その点ができているかどうかチェックするといいいでしょう。そうすれば、学生は、会話の流れを作ることが大切であると考えるようになるでしょう。

このように教室で練習をしておけば、実際に日本人と話すときにもスムーズに会話ができるようになります。さらに、教室を離れても、学生自身が日本人同士の会話を観察しながら、会話の流れを学ぶ力が身に付くでしょう。

会話のしくみについて、ここではあまり詳しく説明することができませんでした。もっとよく知りたい方は、参考文献の『日本語教育と会話分析』などを参照してください。

次回も今回に引き続き、話すことの指導に焦点を当てます。次回は会話のストラテジーの指導法を紹介します。

#### 参考文献

- 谷口すみ子、萬浪絵理、稲子あゆみ、萩原弘毅 (1995) 『日本語入門はじめのいっぽ』スリーエーネットワーク
- 筑波ランゲージグループ (1992) 『Situational Functional Japanese Volume One: Drill』凡人社
- 堀口純子 (1997) 『日本語教育と会話分析』くろしお出版
- Dornyei, Z. & Thurrel, S. (1992) Conversation And Dialogues in Action. Prentice Hall

\* 今回から、このコーナーの担当者は、有馬淳一、古川嘉子 (日本語国際センター専任講師) になりました。

読者の皆さんのアイデア、成功例、失敗談などをお寄せください。